

楽しさと魅力がいっぱい

# もつと図書館を利用しよう



「中央図書館は難しい本だけを置いていて、私たちには縁遠いところなのでは」とお思いのかたも多いのではないのでしょうか。決してそんなことはありません。

幼児が楽しめる絵本や紙芝居もあれば新聞や週刊誌、月刊誌などもあります。また、小説などのほかに、ちょっとした研究、調査などにも利用できる専門書までもがそろっています。さらに、館内には古文書や石器・土器などの展示コーナーもあります。まさに図書館は世代、ジャンルを問わず魅力でいっぱいです。こんな図書館を利用しないというのは損です。どんどん利用しましょう。

## 中央図書館を

### 利用するには



中央図書館はだれでも利用することができます。ただし、館外貸し出しを希望される場合には利用者登録をしなければなりません。この登録は簡単な手続きで済みますので、ぜひ登録してください。同じ利用といっても、館内での閲覧だけであれば登録はいりません。閲覧コーナーを利用して自由に本を楽しむことができます。中央図書館の開館時間等は次のようになっています。

### 開館時間

9時30分～17時15分  
(土曜日は12時30分まで)

### 休館日

第3日曜日、第4木曜日、祝祭日、年末年始及び本の虫干し期間(9月中に約10日間)

### 1回に貸し出す本

一人当たり 本は3冊まで

## 中央図書館には

### どれだけの本があるの



紙芝居は3巻まで  
貸し出し期間・2週間以内

昨年(1997)の十月末現在の蔵書数(図書館で持っている本の数)は、約十万六千三百冊(このうち児童書が約二万六千冊)、紙芝居が約八百巻です。また、おとり号(移動図書館)専用の本が約三万九千八百冊、紙芝居が約八百五十巻あります。さらに、展示用の古文書が約二千二百冊、石器・土器類が約六千五百点あります。

また、地方紙から全国紙(英字紙、スポーツ紙を含む)まで、新聞は十二紙、週刊誌・月刊誌などは四十二誌購入しています。これに寄贈されてくる週刊誌・月刊誌を加えると約百誌の雑誌もご覧になれます。

これだけの本の数ですから、きっとあなたのお探しになってい